

2015年5月12日のNIBニュース

● ネパールの今…長大教授「継ぎ目ない支援を」

ネパールの大地震で医療支援活動にあたった長崎大学の教授が現地の状況を報告した。

長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授は国際医療援助団体の「AMDA」のメンバーとして発生5日後から約1週間、ネパールに入った。建物が壊れた病院の敷地に仮設の診療所を作り24時間体制で住民の骨折や打撲の手当てを支援。コレラ、赤痢などの感染症を防ぐため手洗いや汚染された水を飲まないことも呼びかけた。県内の留学生たちは募金活動を行うなどしてふるさとを支援している。学生が集めた約70万円の募金は東京の日本語学校連合会を通じて送られる。